

2.5 都市計画対象事業に係る工事計画

2.5.1 2期区分による工事、事業化

基本計画において、第1期計画と第2期計画の区分を設定した。土地取得の容易性や公園整備のインパクト、社会条件の変化への柔軟な対応等に鑑み、中央の市道来間線より西側を第1期、東側を第2期と大きく分けたものである(図 2.5.1-1 参照)。

(1) 第1期整備

第1期は、前浜の利用者の利便性に配慮し、エントランスゾーンをはじめとする敷地西側を整備対象範囲とする。また、海辺の森強化ゾーンについては、敷地東側ではあるが初期整備として、樹林の育成を行うものとする。樹林育成は、市道を廃道にすることができた段階で支障のない部分から進める。基本計画から変更した点として、民活の導入を想定するビーチハウス・マリンハウスの2施設については民間が参画しやすいよう包括的に扱い、いずれも1期に含めることとする。

(2) 第2期整備

第2期の整備は、その時期の地域のニーズや観光動向等を改めて検討し、駐車場台数など施設の規模やあり方は一定柔軟に対応しながら進める。

民間施設の観光農園部分は、営業中の施設であり公園としての整備投資を急がなくても機能を発揮できることや、周囲の園路等は一体的に整備したほうが合理的なため第2期に含める。



図 2.5.1-1 第1期、2期公園整備範囲

2.5.2 工事施工順序

宮古広域公園(仮称)の整備にあたっては、以下の工事を行う。

表 2.5.2-1 各工事の概要

工事の種類	工事の概要
防災対策工事	土砂流出防止のための仮設沈砂池等の工事を行う。
敷地造成工事	切盛土工、敷均し転圧、法面整形等の工事を行う。
雨水排水施設工事	雨水排水路、浸透柵等の工事を行う。
設備関連施設工事	上水道管の布設、電柱及び架線等の工事を行う。
園路広場等工事	園路、スポーツ施設を含む各種広場等の路床、舗装等の工事を行う。
緑地・植栽工事	樹木植栽、地被植栽等の工事を行う。
便益施設工事	便所、浄化槽等の工事を行う。
建築施設工事	ビジターセンター、ビーチハウス等の建築施設の工事を行う。

第1期公園整備範囲、及び第2期公園整備範囲ごとに工事を行う。第1期公園整備範囲、第2期公園整備範囲の工事ともに本事業での基本的な工事施工順序は図2.5.2-1のとおり、対象事業実施区域外への土砂流出防止のための防災対策工事から着手し、敷地造成工事、雨水排水施設工事、設備関連施設工事、園路・広場等工事、緑地・植栽工事を段階的に進める予定である。

便益施設工事、建築施設工事に関しては、対象事業実施区域内の園路が概ね完成した段階以降に着手する予定である。

対象事業実施区域の工事施工計画については、表2.5.2-2～表2.5.2-5に示すとおりである。

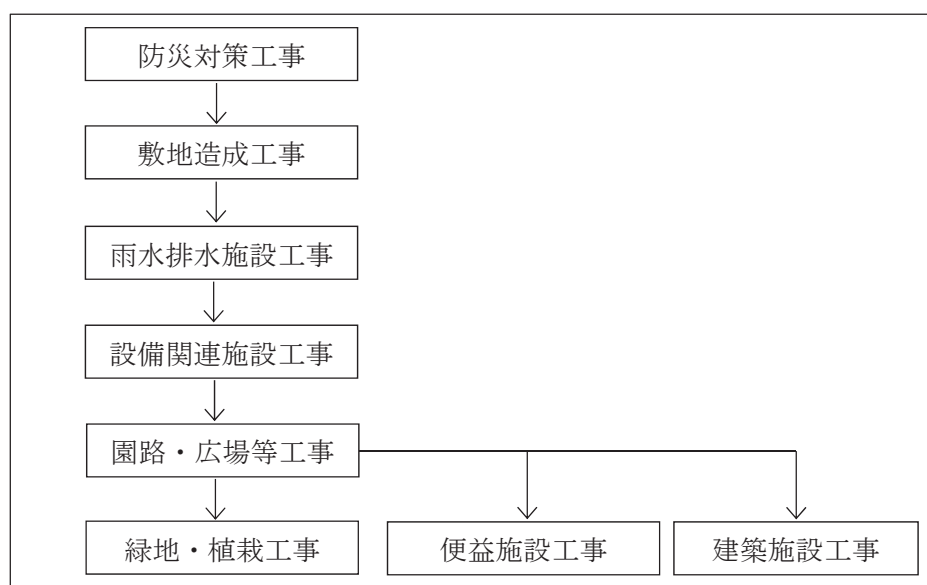


図 2.5.2-1 工事施工順序

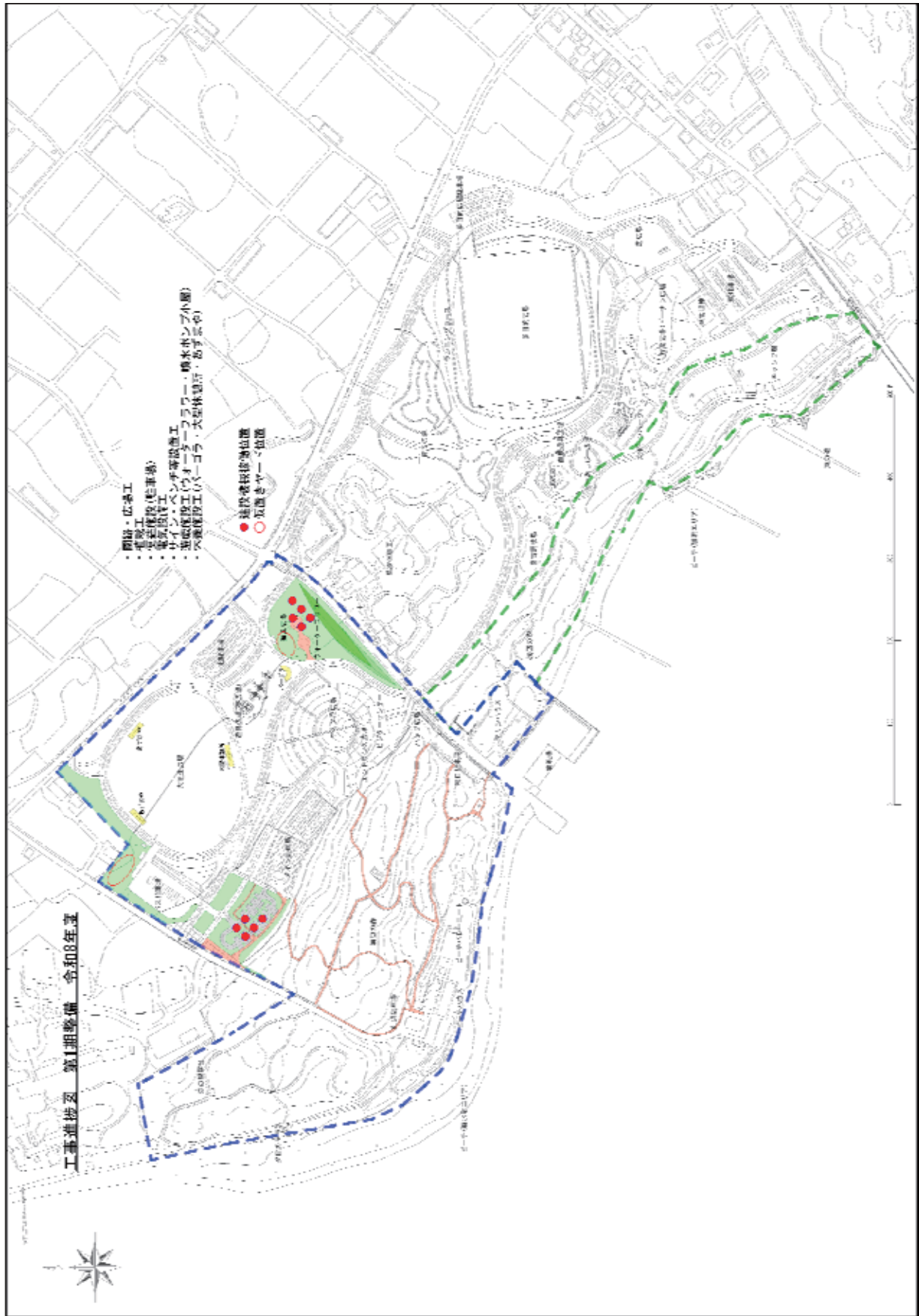


図 2.5.2-2 (6) 工事進捗図(R8)

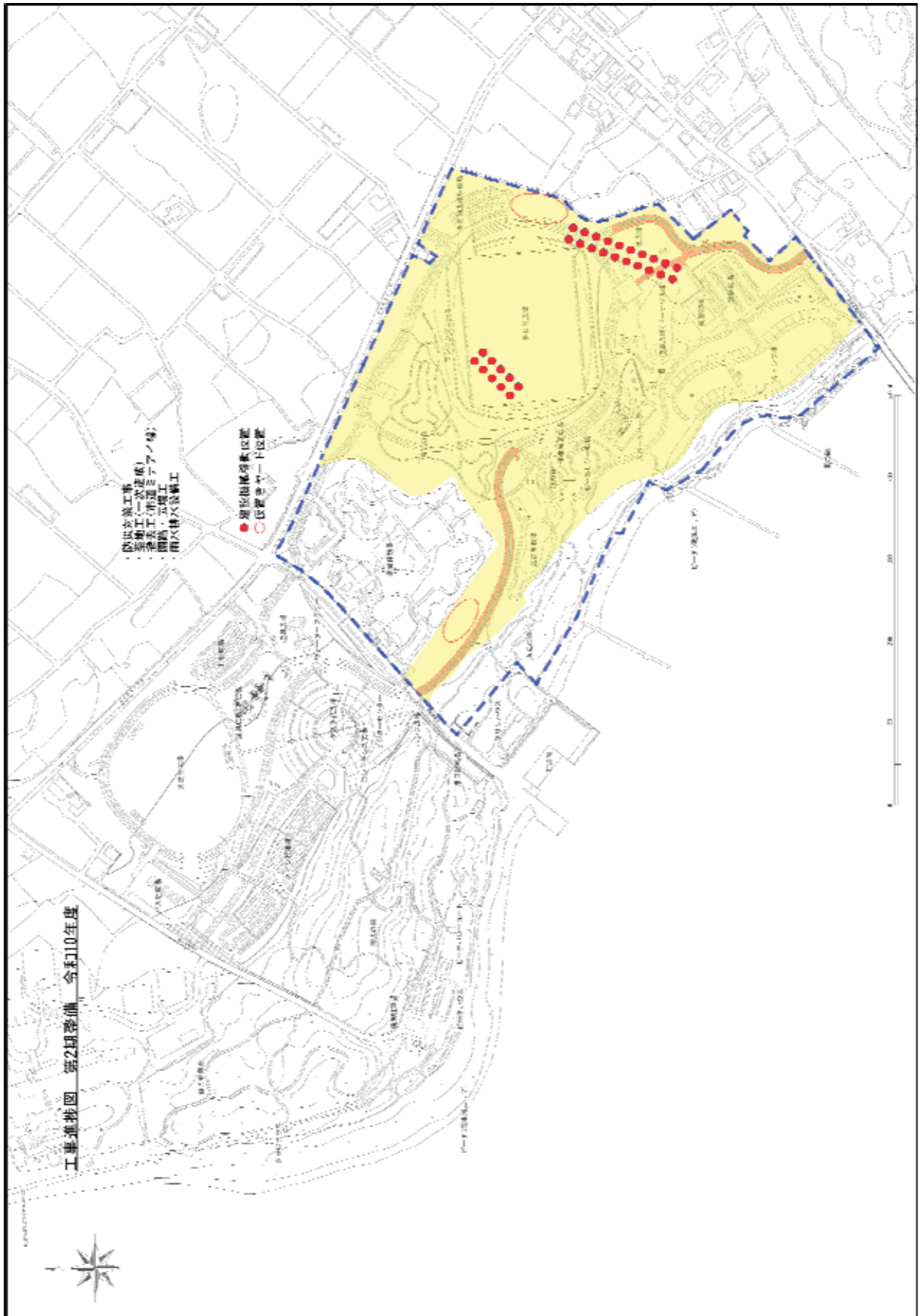


図 2.5.2-2 (7) 工事進捗図(R10)

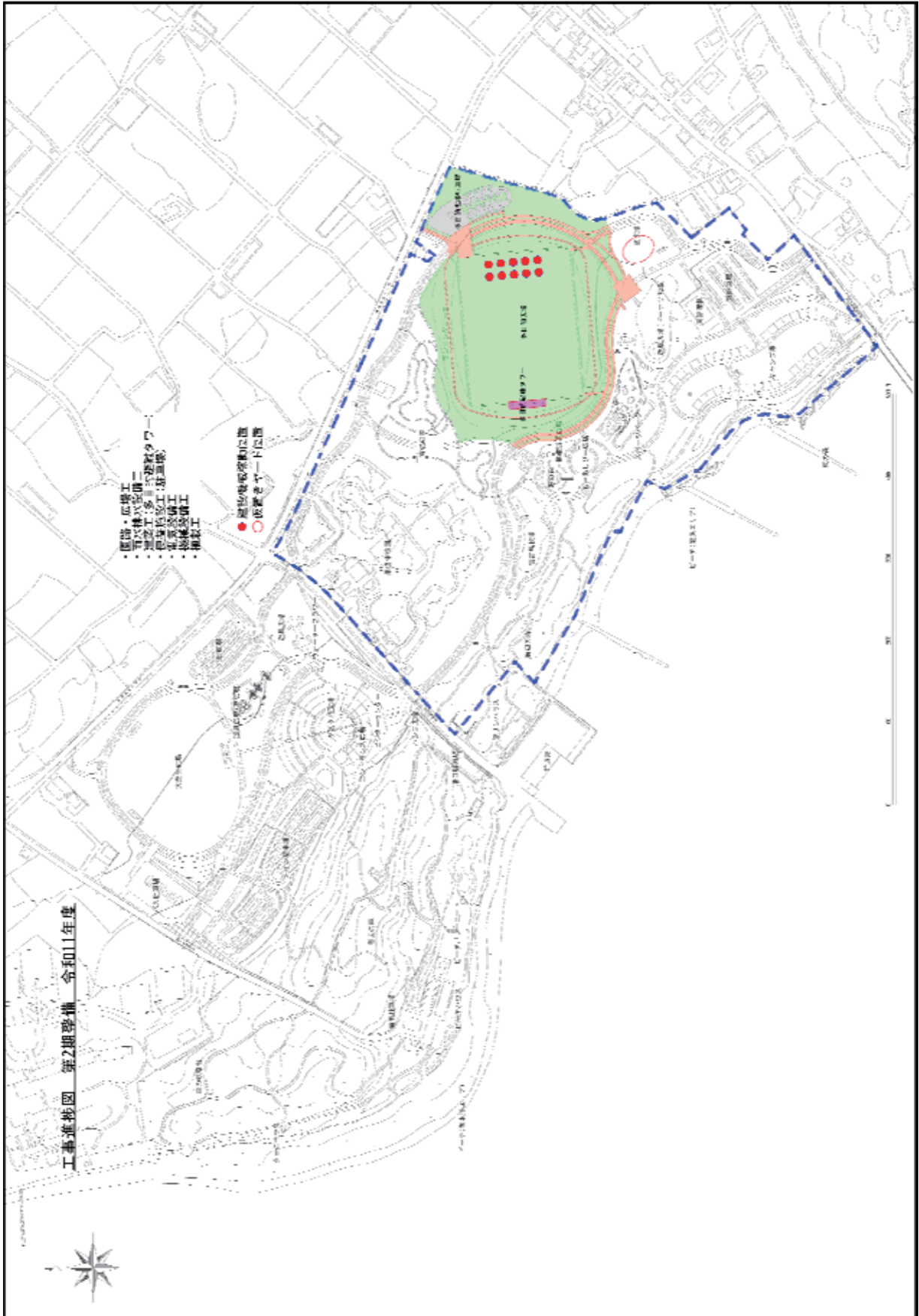


図 2.5.2-2 (8) 工事進捗図(R11)

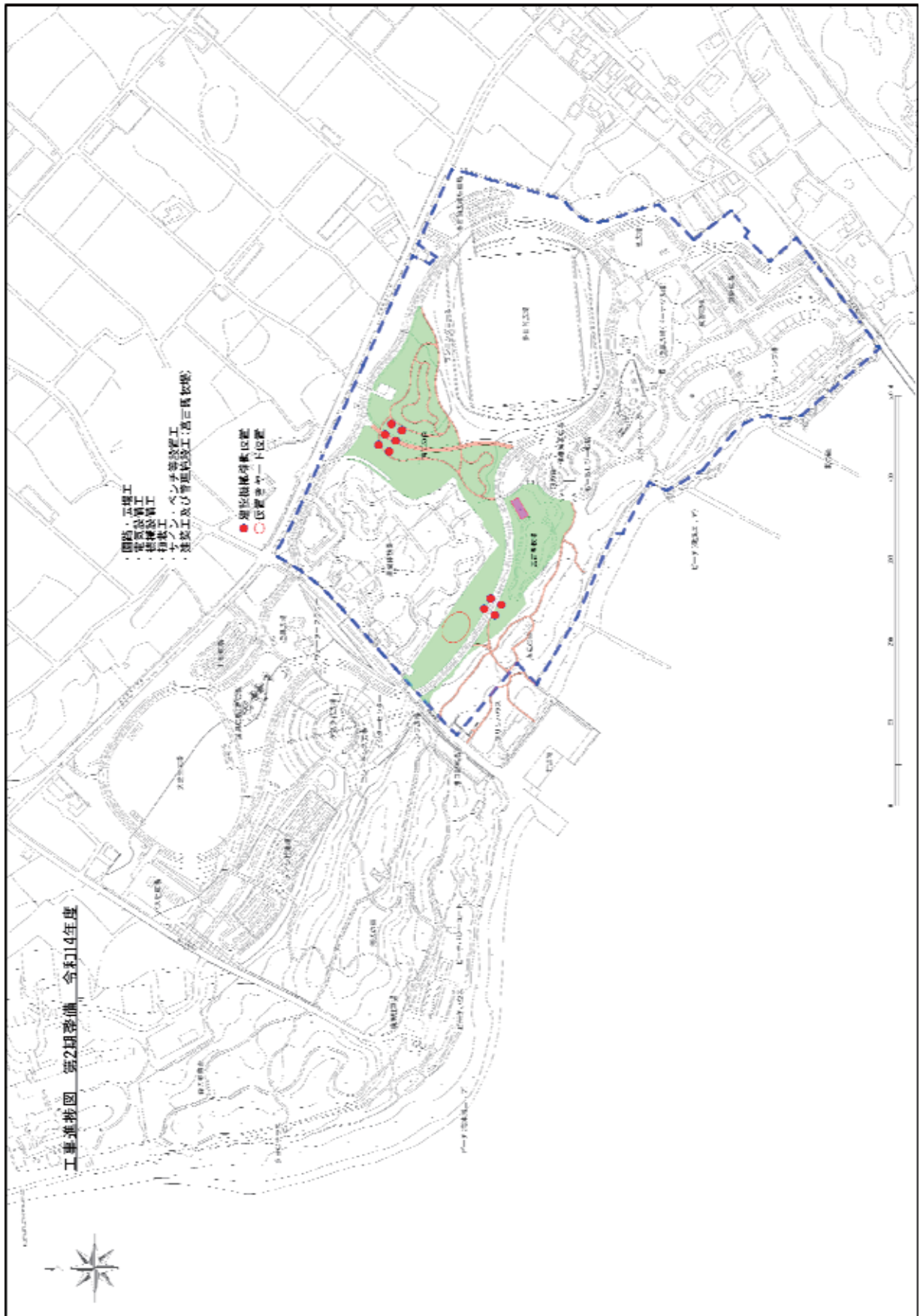


図 2.5.2-2 (11) 工事進捗図(R14)

2.5.3 運土計画

対象事業実施区域の切土及び盛土を表す運土計画図を図 2.5.3-1 に示す。

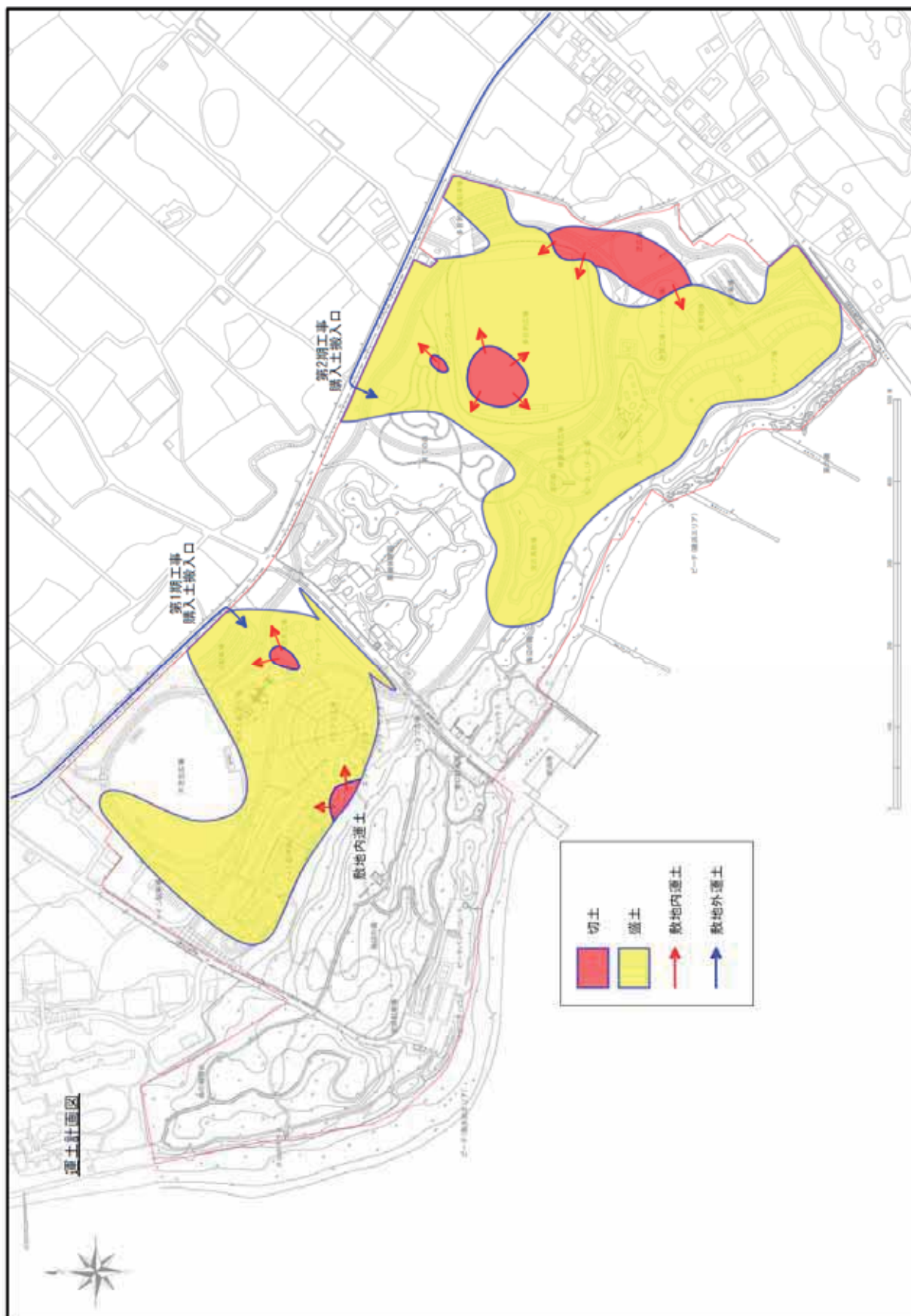


図 2.5.3-1 運土計画図

切土及び盛土等の土量を表 2.5.3-1 に示す。

表 2.5.3-1 切土及び盛土の土量

単位：m³

種別		計算式	土量
第1期	切土	$6,510\text{m}^3 \times 1.30 \times 1.80$ (切土量) (変化率) (比重)	15233.4t
	盛土	$(51,000\text{m}^3 - 6,510\text{m}^3) / 0.90 \times 1.8$ (盛土量) (切土量) (変化率) (比重)	88980.0t
第2期	切土	$20,785\text{m}^3 \times 1.30 \times 1.80$ (切土量) (変化率) (比重)	48636.9t
	盛土	$(136,078.8\text{m}^3 - 20,785\text{m}^3) / 0.90 \times 1.8$ (盛土量) (切土量) (変化率) (比重)	230587.6t
建設発生土量			-255697.3t

対象事業実施区域では切土・盛土による建設発生土量(-255,697.3t)は不足するため、客土として盛土に用いる土砂等を受け入れる必要がある。その際に盛土に用いる土砂は、宮古島島内からの搬入を基本とし、宮古島の約9割を占める島尻マージ(礫混じり)及び琉球石灰岩を予定している。

2.5.4 工事中の仮設防災計画

浸透池計画容量を表 2.5.4-1、浸透池配置図を図 2.5.4-1 に示す。

工事中の濁水流出防止対策は、透水係数の高い島尻マーヅが分布していること、流末がないことを踏まえ、浸透池による対策とする。赤土等を含んだ濁水については、工事中の濁水処理施設は、全てのエリアで浸透池を設置、浸透池に貯留・地下に浸透させる。

(1) 赤土等流出防止計画

本事業に係る赤土流出防止対策は、「沖縄県赤土等流出防止条例」(沖縄県、平成 6 年 10 月 20 日、条例第 36 号)及び「同施工規則」(沖縄県、平成 7 年 10 月 9 日、規則第 64 号)、「土地改良事業等における赤土等流出防止対策設計指針」(沖縄県農林水産部、平成 7 年 10 月)等に準拠して行う。

(2) 発生源対策及び流出防止対策

造成等の工事期間中は、発生源対策として法面等の斜面地へシート被膜する。流出防止対策として、流域別に表面排水流下方向へ切り回し水路を設け、浸透池へ集水し地下浸透を図る。

(3) 濁水処理の方法

対象事業実施区域内の裸地で発生した濁水は、流域別に表面排水流下方向へ切り回し水路を設けることにより浸透池へ集水し、石灰岩地域につき地下浸透させて処理する。

対象事業実施区域は透水係数の高い島尻マーヅが分布しているため、「土地改良事業等における赤土等流出防止対策設計指針」(沖縄県農林水産部、平成 7 年 10 月)より、必要容量は 230 m³/ha としていることから、浸透池容量として、230 m³/ha 以上の容量を確保するものとする。

各浸透池の計画容量は、透水係数の高い島尻マーヅが分布している当該地域において、基準となる 230 m³/ha の 1.5 倍以上余裕があり容量は十分と考えられ、対象裸地面積に対する必要量について全て満たしている。

表 2.5.4-1(1) 第 1 期整備 浸透池計画容量

	集水面積 V1 (ha)	必要容量 (m ³)	a (m)	b (m)	A (m)	B (m)	h (m)	浸透池容量 V2(m ³)	結果	余裕率
流域1	2.37	544.4	32.0	20.0	29.0	17.0	1.5	847.5	OK	1.56
	$V_1 = 230 \times 2.37 = 544.4 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{32.0 \times 17.0 + 29.0 \times 20.0 + 2(32.0 \times 20.0 + 29.0 \times 17.0)\} = 847.5 \text{ m}^3$									
流域2	1.63	375.7	30.0	15.0	27.0	12.0	1.5	578.3	OK	1.54
	$V_1 = 230 \times 1.63 = 375.7 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{30.0 \times 12.0 + 27.0 \times 15.0 + 2(30.0 \times 15.0 + 27.0 \times 12.0)\} = 578.3 \text{ m}^3$									
流域3	1.03	236.3	25.0	12.0	22.0	9.0	1.5	371.3	OK	1.57
	$V_1 = 230 \times 1.03 = 236.3 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{25.0 \times 9.0 + 22.0 \times 12.0 + 2(25.0 \times 12.0 + 22.0 \times 9.0)\} = 371.3 \text{ m}^3$									
流域4	1.94	446.0	30.0	17.5	27.0	14.5	1.5	685.1	OK	1.54
	$V_1 = 230 \times 1.94 = 446.0 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{30.0 \times 14.5 + 27.0 \times 17.5 + 2(30.0 \times 17.5 + 27.0 \times 14.5)\} = 685.1 \text{ m}^3$									
流域5	1.63	375.7	30.0	15.0	27.0	12.0	1.5	578.3	OK	1.54
	$V_1 = 230 \times 1.63 = 375.7 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{30.0 \times 12.0 + 27.0 \times 15.0 + 2(30.0 \times 15.0 + 27.0 \times 12.0)\} = 578.3 \text{ m}^3$									
流域6	1.23	282.0	23.0	15.0	20.0	12.0	1.5	436.5	OK	1.55
	$V_1 = 230 \times 1.23 = 282.0 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{23.0 \times 12.0 + 20.0 \times 15.0 + 2(23.0 \times 15.0 + 20.0 \times 12.0)\} = 436.5 \text{ m}^3$									
流域7	1.75	401.4	30.0	16.0	27.0	13.0	1.5	621.0	OK	1.55
	$V_1 = 230 \times 1.75 = 401.4 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{30.0 \times 13.0 + 27.0 \times 16.0 + 2(30.0 \times 16.0 + 27.0 \times 13.0)\} = 621.0 \text{ m}^3$									
流域8	0.21	48.9	12.0	6.5	9.0	3.5	1.5	79.9	OK	1.63
	$V_1 = 230 \times 0.21 = 48.9 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{12.0 \times 3.5 + 9.0 \times 6.5 + 2(12.0 \times 6.5 + 9.0 \times 3.5)\} = 79.9 \text{ m}^3$									
流域9	0.17	39.8	12.0	5.5	9.0	2.5	1.5	64.1	OK	1.61
	$V_1 = 230 \times 0.17 = 39.8 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{12.0 \times 2.5 + 9.0 \times 5.5 + 2(12.0 \times 5.5 + 9.0 \times 2.5)\} = 64.1 \text{ m}^3$									
流域10	0.39	89.4	15.0	8.5	12.0	5.5	1.5	142.9	OK	1.60
	$V_1 = 230 \times 0.39 = 89.4 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{15.0 \times 5.5 + 12.0 \times 8.5 + 2(15.0 \times 8.5 + 12.0 \times 5.5)\} = 142.9 \text{ m}^3$									

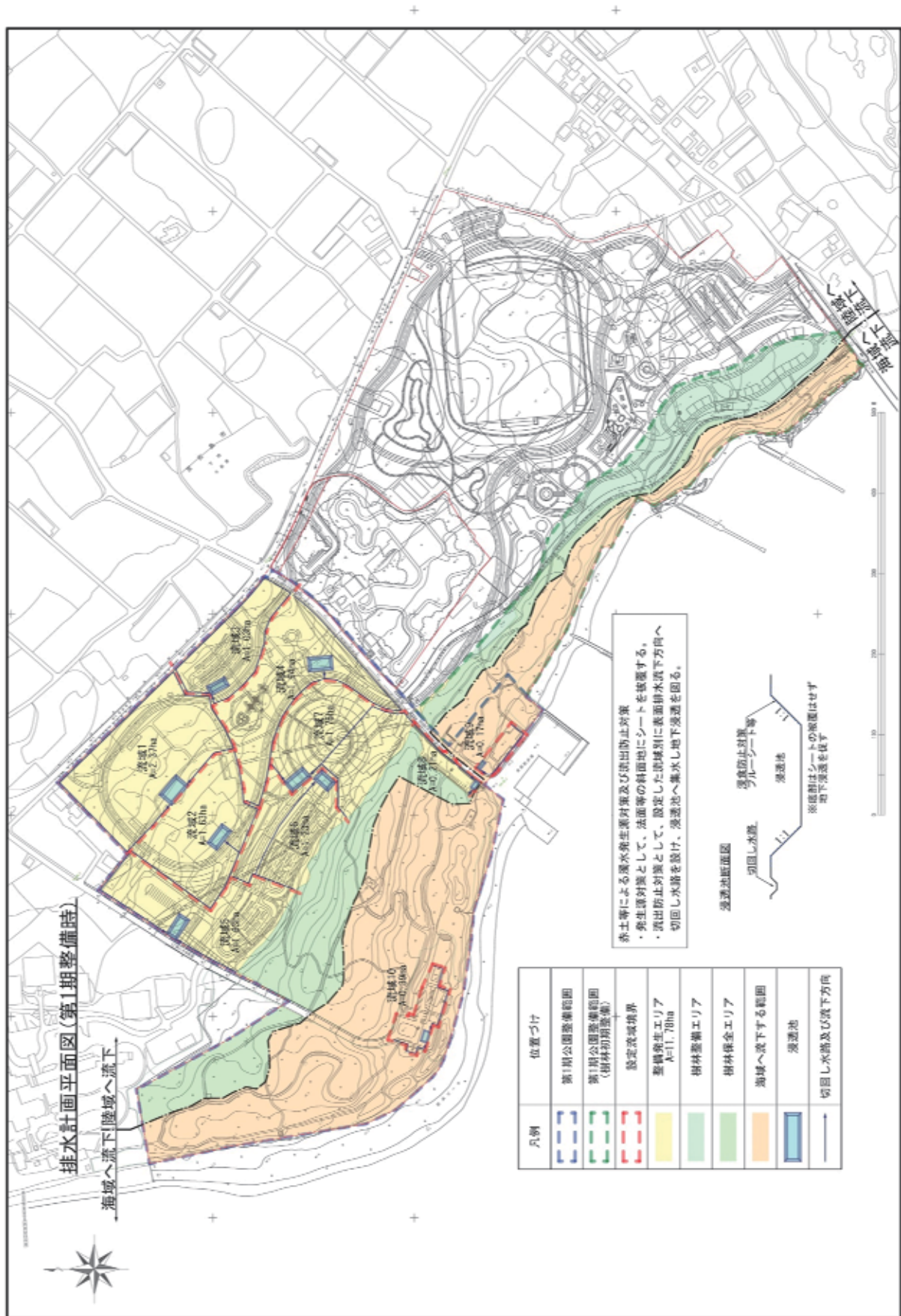


図 2.5.4-1(1) 第1期整備 浸透池配置図

表 2.5.4-1(2) 第 2 期整備 浸透池計画容量

	集水面積 V1 (ha)	必要容量 (m ³)	a (m)	b (m)	A (m)	B (m)	h (m)	浸透池容量 V2 (m ³)	結果	余裕率
流域1	1.32	303.0	24.0	15.0	21.0	12.0	1.5	456.8	OK	1.51
	$V_1 = 230 \times 1.32 = 303.0 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{24.0 \times 12.0 + 21.0 \times 15.0 + 2(24.0 \times 15.0 + 21.0 \times 12.0)\} = 456.8 \text{ m}^3$									
流域2	1.67	383.6	30.0	15.0	27.0	12.0	1.5	578.3	OK	1.51
	$V_1 = 230 \times 1.67 = 383.6 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{30.0 \times 12.0 + 27.0 \times 15.0 + 2(30.0 \times 15.0 + 27.0 \times 12.0)\} = 578.3 \text{ m}^3$									
流域3	1.80	414.0	30.0	16.0	27.0	13.0	1.5	621.0	OK	1.50
	$V_1 = 230 \times 1.80 = 414.0 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{30.0 \times 13.0 + 27.0 \times 16.0 + 2(30.0 \times 16.0 + 27.0 \times 13.0)\} = 621.0 \text{ m}^3$									
流域4	1.80	414.4	30.0	16.0	27.0	13.0	1.5	621.0	OK	1.50
	$V_1 = 230 \times 1.80 = 414.4 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{30.0 \times 13.0 + 27.0 \times 16.0 + 2(30.0 \times 16.0 + 27.0 \times 13.0)\} = 621.0 \text{ m}^3$									
流域5	1.27	292.2	36.0	10.0	33.0	7.0	1.5	441.0	OK	1.51
	$V_1 = 230 \times 1.27 = 292.2 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{36.0 \times 7.0 + 33.0 \times 10.0 + 2(36.0 \times 10.0 + 33.0 \times 7.0)\} = 441.0 \text{ m}^3$									
流域6	1.16	266.4	22.0	15.0	19.0	12.0	1.5	416.3	OK	1.56
	$V_1 = 230 \times 1.16 = 266.4 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{22.0 \times 12.0 + 19.0 \times 15.0 + 2(22.0 \times 15.0 + 19.0 \times 12.0)\} = 416.3 \text{ m}^3$									
流域7	1.00	231.0	29.0	10.0	26.0	7.0	1.5	351.8	OK	1.52
	$V_1 = 230 \times 1.00 = 231.0 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{29.0 \times 7.0 + 26.0 \times 10.0 + 2(29.0 \times 10.0 + 26.0 \times 7.0)\} = 351.8 \text{ m}^3$									
流域8	2.24	515.0	30.0	20.0	27.0	17.0	1.5	792.0	OK	1.54
	$V_1 = 230 \times 2.24 = 515.0 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{30.0 \times 17.0 + 27.0 \times 20.0 + 2(30.0 \times 20.0 + 27.0 \times 17.0)\} = 792.0 \text{ m}^3$									
流域9	1.37	316.2	25.0	15.0	22.0	12.0	1.5	477.0	OK	1.51
	$V_1 = 230 \times 1.37 = 316.2 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{25.0 \times 12.0 + 22.0 \times 15.0 + 2(25.0 \times 15.0 + 22.0 \times 12.0)\} = 477.0 \text{ m}^3$									
流域10	1.08	248.4	20.0	15.0	17.0	12.0	1.5	375.8	OK	1.51
	$V_1 = 230 \times 1.08 = 248.4 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{20.0 \times 12.0 + 17.0 \times 15.0 + 2(20.0 \times 15.0 + 17.0 \times 12.0)\} = 375.8 \text{ m}^3$									
流域11	1.82	417.7	24.0	20.0	21.0	17.0	1.5	625.5	OK	1.5
	$V_1 = 230 \times 1.82 = 417.7 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{24.0 \times 17.0 + 21.0 \times 20.0 + 2(24.0 \times 20.0 + 21.0 \times 17.0)\} = 625.5 \text{ m}^3$									
流域12	1.32	302.5	24.0	15.0	21.0	12.0	1.5	456.8	OK	1.51
	$V_1 = 230 \times 1.32 = 302.5 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{24.0 \times 12.0 + 21.0 \times 15.0 + 2(24.0 \times 15.0 + 21.0 \times 12.0)\} = 456.8 \text{ m}^3$									
流域13	0.81	186.4	20.0	12.0	17.0	9.0	1.5	292.5	OK	1.57
	$V_1 = 230 \times 0.81 = 186.4 \text{ m}^3$ $V_2 = 1.5/6 \times \{20.0 \times 9.0 + 17.0 \times 12.0 + 2(20.0 \times 12.0 + 17.0 \times 9.0)\} = 292.5 \text{ m}^3$									

2.5.5 廃棄物処理計画

(1) 工事の実施

工事の実施時の廃棄物の種類と発生量及び処理方法を表 2.5.5-1、廃棄物発生量の内訳を表 2.5.5-2 に示す。

表 2.5.5-1 廃棄物の種類と発生量及び処理方法(工事の実施)

区分	分類	発生量	処理方法	
施設建設時	アスファルト コンクリート 撤去木	3307.0t	アスファルト・コンクリートは再資源化 撤去木は堆肥として再資源化	
	産業廃棄物	ガラス・陶磁器	4.9t	建設リサイクル法に従い廃棄物処理法の許認可業者に再資源化及び適正処理を委託する。
		廃プラスチック	8.3t	
		金属くず	7.0t	
		木くず	13.5t	
		紙くず	7.4t	
		石膏ボード	7.7t	埋立(管理型)
	一般廃棄物	その他	27.3t	適正処理(最終処分場処理)
	建設発生土	-255697.3t	切土は事業実施区域内の盛土に利用	

注 1) アスファルト・コンクリート・撤去木の発生量は、基本設計内容を基に試算

注 2) 建設発生土は、切土量より盛土量が上回るため、対象事業実施区域外に搬出されない

注 3) 上記以外の廃棄物は、排出原単位を「建築系混合廃棄物の組成・原単位調査報告書」(平成 24 年 11 月 (社)日本建設業連合会)17P を、基本設計における建築面積を参照し試算

表 2.5.5-2 廃棄物発生量の内訳(工事の実施)

項目		数量	
市道ミナアイ線撤去	アスファルト、コンクリート、 街路樹撤去	1790.4t	
建築施設解体（ウインディまいばま）	コンクリート、アスコン	1516.6t	
	ガラス・陶磁器	0.44t	
	廃プラスチック	1.12t	
	金属くず	1.68t	
	木くず	2.56t	
	紙くず	1.60t	
	石膏ボード	0.68t	
建築工事	ガラス・陶磁器	4.42t	
	廃プラスチック	7.21t	
	金属くず	5.35t	
	木くず	10.93t	
	紙くず	5.81t	
	石膏ボード	6.98t	
産業廃棄物合計		3355.8t	
建築施設解体（ウインディまいばま）	その他	8.2t	
建築工事	その他	19.07t	
一般廃棄物合計		27.3t	
造成	第1期	切土運搬(園内)	15233.4t
		盛土(購入土搬入)	88980.0t
	第2期	切土運搬(園内)	48636.9t
		盛土(購入土搬入)	230587.6t
建設発生土合計		-255697.3t	

注 1) アスファルト・コンクリート・撤去木の発生量は、基本設計内容を基に試算

注 2) 建設発生土は、切土量より盛土量が上回るため、対象事業実施区域外に搬出されない

注 3) 上記以外の廃棄物は、排出原単位を「建築系混合廃棄物の組成・原単位調査報告書」(平成 24 年 11 月 (社) 日本建設業連合会)17P を、基本設計における建築面積を参照し試算

(2) 施設等の存在・供用

施設等の存在・供用時の廃棄物の種類と発生量及び処理方法を表 2.5.5-3 に示す。

また、廃棄物発生施設からの排出量を表 2.5.5-4 に示した。廃棄物発生施設からの排出量は、表 2.5.5-5 に示す廃棄物の発生する施設の年間利用者数から算出した。

表 2.5.5-3 廃棄物の種類と発生量及び処理方法(施設の存在・供用)

区分	対象工事・対象施設(ゾーン)	分類	発生量	処理方法	
施設等の存在・供用	高度処理型浄化槽(マリンハウス、ビーチハウス)	一般廃棄物(し尿汚泥)	387k1/年	し尿処理施設にて処理	
	循環型浄化槽(ビクターセンター・遊具広場・駐車場・牧場・多目的広場避難タワー・東管理棟)		52k1/年		
	廃棄物発生施設(マリンハウス・ビーチハウス・ビクターセンター・牧場・観光果樹園・キャンプ場)	一般廃棄物	759.7 t/年		
		種類別			
		可燃ごみ	633.9 t/年	焼却後埋立	
		不燃ごみ	0.0 t/年		
	資源ごみ	111.3 t/年	再資源化(不燃残渣は埋立)		
粗大ごみ	14.5 t/年	再資源化(不燃残渣は埋立)			
緑地	一般廃棄物 剪定枝・刈草等	279.6 t/年	草木類は堆肥として再資源化		

注 1) 高度処理浄化槽のし尿汚泥は、汚泥転換率から算定。循環型浄化槽のし尿汚泥は、固液分離槽の容量(一次処理槽の固液分離槽のスカム及び汚泥)。

注 2) 廃棄物発生施設の廃棄物は、環境省 HP 廃棄物処理技術情報における一般廃棄物処理実態調査結果(平成 28 年度)及び宮古広域公園基本設計報告書より試算。

https://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h28/index.html

注 3) 居住人口当たりのごみ排出量から推定した本表中の発生量予測値は、実際の公園利用状況によっては過大な値となる可能性がある。

注 4) 剪定枝等の発生量は、「都市由来植物廃材のエネルギー利用手法等に関する技術資料」(国土交通省 国土技術政策総合研究所)に基づき試算。

<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn0845.htm>

① 都市公園 1ha あたりからの植物廃材の年間発生量

$0.91(\text{剪定枝}) + 4.66(\text{草本}) = 5.57\text{t/年/ha}$ (絶乾重量)

原単位の数値は、「都市由来植物廃材のエネルギー利用手法等に関する技術資料 37P」

② 公園計画面積約 50.2ha からの植物廃材の発生量

$5.57(\text{t/年/ha}) * 50.2(\text{ha}) = 279.6(\text{t/年})$

表 2.5.5-4 廃棄物発生施設からの排出量

廃棄物の種類	市全体からの排出量 (H28収集ごみ量) [t/年](A)	一人当たり 排出量(H28年度) [t/人年](C=A/B)	廃棄物発生施設 からの排出量 [t/年](E=C*D)
全体	17,416	0.32097	759.74
可燃ごみ	14,532	0.26782	633.93
不燃ごみ	0	0.00000	0.00
資源ごみ	2,552	0.04703	111.33
粗大ごみ	332	0.00612	14.48

宮古島市人口[人](B)	54,260
廃棄物発生利用者数[人/年](D)	2,367

※ 公園利用者の廃棄物は、環境省HP廃棄物処理技術情報における一般廃棄物処理実態調査結果(平成28年度)及び宮古広域公園基本設計時の年間利用者数推計を基に試算。

https://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h28/index.html

※ 廃棄物発生施設の年間利用者数は、別表(廃棄物の発生する施設の年間利用者数)にて試算。

表 2.5.5-5 廃棄物の発生する施設の年間利用者数

施設名	同時滞在者数				施設別 利用率	廃棄物 発生 施設	施設別 利用者数 [人/年]	利用者 分類別割合			利用者分類別利用者数			滞在時間を加味した 年間利用者数			廃棄物 発生率	廃棄物 発生 利用者数
	地元	国内	海外	合計				地元	国内	海外	地元	国内	海外	地元	国内	海外		
ビーチ(遊泳・マリンレジャー)	75	200	29	304	14.8%													
マリンハウスと周辺	35	80	29	144	7.0%	○	51,464	24%	56%	20%	12,509	28,591	10,364	2,085	1,191	432	10%	370
ビーチハウスと周辺(仮設BBQ含)	75	130	142	347	16.9%	○	124,013	22%	37%	41%	11,123	19,280	21,060	1,854	803	878	10%	353
ビジターセンター	40	75	28	143	7.0%	○	51,106	28%	52%	20%	14,395	26,991	10,077	2,399	1,125	420	5%	197
エントランス広場	15	60	29	104	5.1%													
大芝生広場周辺	150	80		230	11.2%													
遊具広場2カ所、冒険遊び場等	150	60		210	10.2%													
多目的広場	50	60		110	5.4%													
牧場	75	75		150	7.3%	○	53,608	50%	50%	0%	25,732	25,732	0	4,289	1,072	0	5%	268
観光果樹園		75		75	3.7%	○	26,804	0%	100%	0%	0	51,464	0	0	2,144	0	5%	107
スポーツパーク	25	15		40	2.0%													
キャンプ場一帯	25	25		50	2.4%	○	17,869	50%	50%	0%	25,732	25,732	0	4,289	1,072	0	20%	1072
園路・散策路(保安林内を含む)	25	45	29	99	4.8%													
その他	25	20		45	2.2%													
合計	765	1,000	286	2,051	100.0%		324,864						308,782		24,052			2,367

※ 同時滞在者数は、宮古広域公園(仮称)基本設計報告書1-11P参照

※ 施設別年間利用者数は、施設別利用率に年間利用者数推計の73.3万人(基本設計にて設定)を乗じた。

※ 滞在時間は、宮古広域公園(仮称)基本設計報告書1-10Pにて設定の利用者区分別の滞在時間(地元4h、国内客1h、海外客1h)に24で除した。

※ 廃棄物発生利用者数は、滞在時間を加味した年間利用者数に対して廃棄物発生率を乗じて算出した。

2.5.6 資機材の車両搬入ルート

資機材の車両搬入ルートを図 2.5.6-1 に示す。



図 2.5.6-1 資機材の車両搬入ルート